

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	H.T	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	3年	派遣国	イギリス
派遣大学	リーズ・トリニティ大学		
期間	2022年 9月 14日～ 2023年 5月 1日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()				
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()				
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○				
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫 ◎
滞在費	約 (80000) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃				
移動	(徒歩) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法				

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	20000 円	自炊用の食料品と外食費
学用品購入費	1000 円	文房具
交通費	3000 円	バイト先までのバス代
交際費	10000 円	友達との交際費
その他	5000 円	学内のジム会費
合計	39000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

学校があった Horsforth という街はリーズ市内からは外れた場所にあったため、治安は比較的安全でした。リーズ市内やロンドン市内は、人も多く、不穏な雰囲気のある路地裏などは存在します。また、観光客を狙ったスリなどの被害にあった友達もいたので、人の多い観光地などを訪れる際は注意が必要です。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学 研災付帯海 学 / その他 ()		
加入期間	(8) ヶ月間	保険料	(82100) 円

現地の国/大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町 (**リーズ**)

リーズ・トリニティ大学のある Horsforth はリーズ市内から電車で 20 分ほどの所に位置する田舎町です。農園や牧草地が多く、普通の車道を馬が歩いているという場面を頻繁に目にしました。自然にあふれているので、野生の小動物を見ることもでき、学内でもウサギやリスなどを頻繁に見ました。学生の生活圏としては、遊ぶ場所は少ないですが、食料や日用品を買うことのできる Morrisons という大型スーパーが近くにあるので、日常生活を送る上では不便さは感じませんでした。日本のように 24 時間営業しているコンビニのような店はないので、夜中に何か買い出しに行きたいときなどは少し不便に思いました。学校近くで学生たちがよく行く場所としては、まずは徒歩 10 分ほどのところにあるパブです。イギリスはパブでビールを飲むという文化が根付いていて、サッカー観戦をしながら友達やそこで出会った人と会話するというのが主流です。またボーリング場とゲームセンターが一緒になっている施設があり、週末などはそこで遊ぶこともありました。

リーズ市内に関しては、3つの大学が集まっているため学生の数も多く、若者向けの施設が多いです。また、大型のデパートが集まっており、そこで日用品以外の買い物をすることが多かったです。日本料理屋も数多くあり、日本人シェフの経営する寿司屋、和食屋は少し高級で、学生よりは大人向けの印象です。現地の日本食チェーン店は学生も頻繁に利用していて、人気もありました。日本の食料品を購入する場合はアジアの食料品を取り扱う店舗がいくつかあるので、そこで購入しました。

【学業編】

1. 大学情報

大学	リーズ・トリニティ大学	所在地	Horsforth
最寄空港	リーズ・ブラッドフォード空港	空港からの距離	3km
空港⇄大学	(タクシーで約 15 分) *移動手段		
学生数	11595	留学生数	50
学部	Sport and Wellbeing Business Digital and screen media Psychology and therapeutic studies Children, young people and families Criminology, investigation and policing Computer science Law Teacher education *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Children, young people and families *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Academic Skills, Personal and Professional Development		Introducing to Social Policy and Work with Families	
午後		Introducing to Social Policy and Work with Families			Education, Inequality and Social Justice

② (1)月～(4)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Academic Skills, Personal and Professional Development		Sociology and Psychology of Childhood	
午後		Sociology and Psychology of Childhood			Education, Inequality and Social Justice

3. 履修内容

科目	Academic Skills, Personal and Professional Development		
履修期間	Semester 1, 2	単位数	30
授業内容／形態	子ども・若者・家族学科におけるアカデミックおよび学習スキルの紹介を行う。 <授業形態> 講義とゲストスピーカー講演 <学生数> 20人		
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Introducing to Social Policy and Work with Families		
履修期間	Semester 1	単位数	30
授業内容／形態	社会的に構築された子ども時代の概念と、効果的なアセスメントと子どもや家族のプランニングを評価する現代的な仕事の基礎について探求する。 <授業形態> 講義とディスカッション <学生数> 20人		
成績	52/100		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Sociology and Psychology of Childhood		
履修期間	Semester 2	単位数	30
授業内容／形態	社会学、家族学、児童学の基本的な分析ツールを用いて、子ども、若者、家族、コミュニティの社会的背景を研究する。また、心理学的視点から、発達心理学におけるいくつかの主要な理論について考察し、また社会的要因がどのように子どもの発達と心理・情動の幸福に情報を与えることができるかを検討する。 <授業形態> 講義とディスカッション <学生数> 20人		
成績			

YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	Education, Inequality and Social Justice		
履修期間	Semester 1, 2	単位数	30
授業内容／形態	教育分野における社会的不平等の主要な原因である、階級、ジェンダー、民族的背景などを加味し、教育的不平等と機会のパターンに対する政策の影響を分析する <授業形態> 講義とディスカッション <学生数> 5人		
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			

YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

イニシャル	T. H	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3 年	派遣国	イギリス
派遣大学	リーズ・トリニティ大学		
期 間	2022 年 9 月 14 日～ 2023 年 5 月 1 日		
プログラム	交換留学		

< 留学先大学での履修内容 >

科目	Academic Skills, Personal and Professional Development
講義内容	子ども・若者・家族学科におけるアカデミックおよび学習スキルの紹介を行う。
科目	Introducing to Social Policy and Work with Families
講義内容	社会的に構築された子ども時代の概念と、効果的なアセスメントと子どもや家族のプランニングを評価する現代的な仕事の基礎について探求する。
科目	Sociology and Psychology of Childhood
講義内容	社会学、家族学、児童学の基本的な分析ツールを用いて、子ども、若者、家族、コミュニティの社会的背景を研究する。また、心理学的視点から、発達心理学におけるいくつかの主要な理論について考察する。
科目	Education, Inequality and Social Justice
講義内容	教育分野における社会的不平等の主要な原因である、階級、ジェンダー、民族的背景などを加味し、教育的不平等と機会のパターンに対する政策の影響を分析する
科目	
講義内容	
科目	
講義内容	

<総括>

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

まずは勉強面に関して。9月に渡英してすぐに授業が始まり、最初は現地学生しかいない授業で内容を理解できるのか、発言できるのか不安でしたが、先生や友人のサポートもあり、無事に乗り越えることが出来ました。日本での授業とは異なり、学生同士のディスカッションがメインの授業が多かったです。また、授業のコマ数が少ない代わりに、毎回の授業ごとに予習復習が課されていて、授業時間外の学習も授業内容の一環だという環境でした。予習に関しては、内容に即した先行研究を読んで小レポートにまとめること、動画を見て自分の考えをまとめることが多く、いままで英語で書かれた文章をこれほど大量に読んだ経験が無かったので、なかなか骨の折れる作業でした。しかし慣れてくると、文章を読むスピードやリスニング力が上がったことで、効率よく要点を掴むことができるようになりました。授業内では、教授がスライドを提示して、学生に質問を投げかけたり、学生側からの質問に答えたりと、講義内のディスカッションが活発です。教授の説明中でも、気になった点はどんどん質問するという姿勢に刺激を受けました。そんな環境の中で、全員の前で自分から進んで発言する機会はそれほど多くはありませんでしたが、グループごとのディスカッションでは積極的に議論に参加できました。現地学生以外は自分しかいないので、イギリスと日本の違いについて尋ねられることが多く、日本の教育に関しての知識不足を痛感する場面もありました。復習に関しては、授業で扱った内容に関係する文献を探し、参考にして授業内容をまとめる作業が主でした。授業の最初に reading list を提供してくれるので、文献を探すのはそれほど大変な作業ではないですが、どの文献も論文や書籍がほとんどなので、それを読み込むのは時間がかかりました。前後期の授業や課題を通して、自分の英語力はかなり上がったと実感しています。英語で文章を読むことをあまり苦に思わなくなったこと、積極的に英語で情報収集を行うようになったこと、それ以外にも英語に対してのハードルが下がったと感じています。学問を学ぶ上で日本以外の国の方が進んでいる分野はたくさんあり、自分の興味のある教育分野もその1つです。今後は海外の進んだ研究なども参考にしつつ、残りの大学での勉強や、社会に出てからの情報収集を行っていきたいと思っています。

生活面に関しては、平日の生活はルーティーン化していて、週末に友達と遊びに行くという流れでした。息抜きをしないと勉強に精が入らないというのは本当で、週末にリフレッシュしてまた月曜日から授業に臨むという生活は、自分に合っていました。また、イギリスを訪れたら絶対サッカー観戦をしたいと思っていたので、それが叶えられたことは満足しています。計5試合観戦して、そのついでに観光地を訪れる機会も多かったです。ロンドン、リバプール、マンチェスター、これらの都市はサッカーを見行くついでに何泊かして、観光をめぐりました。都市ごとに特徴が異なり、イギリスらしさは残しつつ、それぞれ魅力を感じる街並みが気に入りました。またイギリスを訪れる機会があったら、今回いけなかった田舎町をめぐる旅行をしたいと考えています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

日本では国際開発や国際関係について学ぶことが多く、教育分野に関しては興味程度でしかなかったのですが、留学先のリーズ・トリニティ大学が教育分野に強い学校だと知り、良い機会だと思い教育についての授業を受講しました。今回、教育を初めて学問として学んでみて、自分の中での興味の変化や将来像の確立が出来ました。これまでは、開発と教育に関心があり、発展途上国への教育支援などを仕事にしたいと考えていましたが、留学期間を通して、日本の教育への興味が強くなりました。イギリスに比べ、まだまだ一斉授業や学力試験が主流ですが、今後日本でも教育の個人化が進んでいくと予想されるため、そういった分野で将来は活動したいと考えるようになりました。また、教育・学校と地域社会の関係にも興味があり、教育・学校が世の中の先頭を行くような社会が理想であり、それが世の中を成熟させるきっかけになると考えています。そのため、核家族化や少子化によって家庭や地域社会の教育力が低下した現代において、今後はまちづくり全体の中での学校・教育の役割、位置づけを再考し、両者が他部局との連携や地域社会を主導していくような社会を作っていく一端を担う仕事をしたいと考えています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

これは授業に関わらずですが、海外で必要とされるスキルが日本違うことを実感しました。作文や自己表現、読解など、何かを吸収して考えるという力こそ学習スキルだという風習があり、今まで詰め込み学習をやってきた日本人学生が留学先で苦労する原因なのではないかと考えました。何を学力とするかは国によって異なることは仕方のないことですが、留学生は語学力と同時に渡航前に上記のようなスキルも身につける必要があると感じました。また、留学中にバイトをすることをお勧めします。自分は渡英直後から寿司屋でバイトをしていて、帰国の直前まで働いていました。最初はイギリス人相手に英語で対応することに不安を感じていましたが、慣れていくうちに彼らの会話を聞く余裕が出たり、1人で接客を任されたりと、働いていく中で成長を感じることでできる環境でした。一番難しかったのは提供する料理や酒の説明を英語でしなければいけないことです。まず料理に関しては、食材や魚の単語を全く知らなかったし、料理を食べる手順などを説明することに苦労しました。もちろんほとんどのお客さんが耳を傾けてくれますが、なかには話に夢中で全くこっちを向いてくれない人、説明したとしてもそれを無視するお客さんもいます。仕方ないかと思えばいいですが、なかなかそのメンタルになるまで時間がかかりました。英語力、精神力ともに成長できるので、留学先でのバイト経験は力になると思います。